

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2021/12/31	2022/9/30	2022/10/14	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	28,791.71	25,937.21	27,090.76	30,795.78	2021/9/14	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ドル	36,338.30	28,725.51	29,634.83	36,952.65	2022/1/5	18,213.65	2020/3/23
円/ドル	円	115.08	144.74	148.67	148.86	2022/10/14	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ FRBによる金融引き締め強化への警戒感が強まったことから下落 ~

先週の日本株市場は、日経平均が▲25.35円(▲0.09%)、TOPIXが▲8.61ポイント(▲0.45%)となり、FRB(米連邦準備理事会)による金融引き締め強化への警戒感が強まったことから下落しました。業種別でみると、海運業、医薬品、ゴム製品などの16業種が上昇した一方、機械、電気機器、水産・農林業の17業種が下落しました。連休明け11日は、①先々週末発表された米雇用統計で労働需給の引き締まりが示されたことを受け、FRBによる金融引き締め強化への警戒感が強まったこと、②バイデン政権が対中国半導体輸出規制の適用対象を大幅に拡大する包括的措置を発表したことにより半導体関連株が売られたことなどから、大幅に下落して始まりました。その後も、9月の米CPI(消費者物価指数)の発表を前に様子見姿勢が強まる中、BOE(イングランド銀行)が14日期限の国債買い入れ措置を延長しない方針を示したことや、9月の米PPI(卸売物価指数)が市場予想を上回ったことなどから軟調に推移しました。13日発表の米CPIが市場予想を上回り米インフレの高止まりが示されたものの、同日の米国株市場が買戻しの動きから急反発した流れを受け週末14日は大幅に上昇して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
10月17日	Mon	日本	第3次産業活動指数(前月比)	8月	▲0.6%
		米国	ニューヨーク連銀製造業景気指数	10月	▲1.5%
10月18日	Tue	中国	GDP(国内総生産)成長率(前年比)	7-9月期	+0.4%
			鉱工業生産(年初来/前年比)	9月	+3.6%
		ドイツ	ZEW期待指数	10月	▲61.9
10月19日	Wed	米国	鉱工業生産(前月比)	9月	▲0.2%
		米国	住宅着工件数	9月	1,575千件
10月20日	Thu	日本	貿易収支	9月	▲2兆8,200億円
		米国	フィラデルフィア連銀製造業景況指数	10月	▲9.9
		米国	景気先行指標総合指数	9月	▲0.3%
10月21日	Fri	米国	中古住宅販売件数	9月	4,800千件
		日本	CPI(全国消費者物価指数)(除生鮮/前年比)	9月	+2.8%
		欧州	ユーロ圏消費者信頼感指数	10月	▲28.8

決算発表予定 他	国内	決算発表 :	10/20 デイコ
	海外	決算発表 :	10/17 BofA 10/18 J&J、ゴールドマン、ネットフリックス 10/19 P&G、IBM、テスラ、アルコア 10/20 AT&T、ホルボ、ブラックストーン、スナップ 10/21 アメックス、ヘライゾン

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 米金融引き締めへの警戒感が残る一方、景気や企業業績への過度な警戒感が和らぎ緩やかに上昇 ~

今週の日本株市場は、米金融引き締めへの警戒感が残る一方、景気や企業業績への過度な警戒感が和らぎ緩やかに上昇するとみえます。先週発表された米CPI(9月)やミシガン大学消費者信頼感指数における期待インフレ率は米国のインフレ圧力の根強さを示す結果となったことから、市場が織り込むFRBの利上げ幅は上方修正されています。今週は来月1-2日に開催されるFOMC(米連邦公開市場委員会)を前に複数のFRB高官による発言が予定されていますが、インフレ抑制を最重要視する姿勢が強調されるとみえており、金融引き締めに対する警戒感が株価の下押しに働くとみえます。また、英国の財政政策に対する不透明感が残ることも相場の重しになると考えます。一方、国内においては、①全国旅行支援や水際対策の緩和が実施されたことを受け各地の観光地での人出の増加が報じられており、経済活動の正常化期待が意識されること、②バリュエーション面で割安感があることなどが支えとなり、下値余地は限定的とみえています。係る環境下で、③18日に発表される中国のGDPが市場予想並みとなれば、ゼロコロナ政策下の行動制限措置が中国经济に与えている過度な警戒感が和らぐとみること、④今週以降本格化する米主要企業の決算内容が底堅いものとなれば、業績不透明感が和らぐとみることなどから、週後半にかけて緩やかに上昇するとみえています。その他の注目材料として、日本では17日の第3次産業活動指数、20日の貿易収支、米国では17日のニューヨーク連銀製造業景気指数、18日の鉱工業生産、20日の中古住宅販売件数、欧州では21日のユーロ圏消費者信頼感指数、ドイツでは18日のZEW期待指数などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.

URL: <https://www.alamco.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。)、が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。